

科目名	生涯発達心理学					授業の種類	演習	必修・選択		必修	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期		1年	後期
【授業の目的・ねらい】 人間の成長に応じて変化する、認知・情緒・自我の発達、社会化等について理解する。											
【実務者経験】											
【授業全体の内容の概要】 乳児期から老年期までの生涯にわたる心理発達について身体、運動、認知、行動、言語などの各側面から理解できる。 国家試験に則した基礎的知識を身につける。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人間の発達を胎児から老人までの生涯のスパンでとらえ、どのような心理的発達経過をとるのか、その基礎知識を身につけると共に、自分自身に対する理解を深めることを目的とする。											
回数	講義内容									準備物(教材)	
1	発達概念 (1) 生涯発達とは、発達理論を理解できる。										
2	(2) 発達の規定要因、発達研究法、発達課題を理解できる。										
3	胎生期 (1) 胎生期の区分を理解できる。										
4	(2) 胎児の生理、心理学的発達、母親の心理と胎児の発達について理解できる。										
5	新生児期 (1) 知覚、認知の発達、社会的能力を理解できる。										
6	乳児期 (1) 知覚・認知の発達、運動の発達を理解できる。										
7	(2) 対人、情緒の発達について理解できる。										
8	(3) 前言語的コミュニケーションと言語獲得を理解できる。										
9	幼児期 (1) 幼児期の特色、遊びによる発達を理解できる。										
10	(2) ピアジェの発達段階について理解できる。										
11	児童期 (1) 児童期の特徴、知的機能の発達、学校教育と発達を理解できる。										
12	(2) 感情の発達、発達障害を理解できる。										
13	青年期 青年期の特徴、青年期の危機と成長について理解できる。										
14	成人期 成人期の特徴、中年期の危機について理解できる。										
15	老年期 老年期の位置づけと特徴、エイジングとパーソナリティを理解できる。										
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『ガイドライン生涯発達心理学第2版』ナカニシヤ出版											
【準備学習・時間外学習】 復習による基礎知識の整理が必要です。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											